

新 入 職 員 紹 介



2月から入職しました磯部と申します。

私は8年前に祖父を自宅で看取るという経験をしました。いっぽスタッフに支えられ乗り越えることができ、患者さんと家族に寄り添う医療者の姿に憧れました。また、自分自身も病気の経験をしたことから患者さんの気持ち、家族の気持ちに寄り添える仕事がしたいと強く思うようになりました。

看護師 磯部 佐保奈

社会人から看護師を志しました。今、憧れを抱いていた場所で働けることが嬉しいです。
未熟ではありますが、自分が大切な家族を支えていただけたように、今度は支える側として精一杯頑張ろうと思います。
どうぞ宜しくお願い致します。

いっぽの一歩

当診療所の2021年を振り返りました。制約のあるご時世でもスタッフは元気！工夫し思い出が沢山の1年になりました。

3月退職スタッフ
送別セレモニー



新入職員
歓迎セレモニー



30周年お祝い会



毎月の勉強会



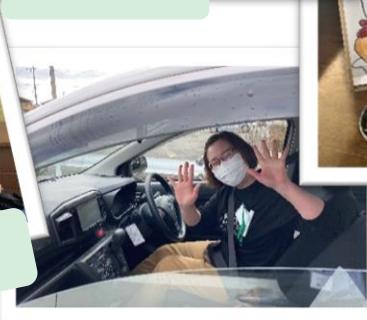
元気印いっぽスタッフ



元気の源
いっぽランチ



毎日の訪問業務



新型コロナウイルス感染症が広がり始めてから2年が過ぎました。この間社会にも医療にも大きな影響がありましたが、入院中、また施設入所中の方の面会制限も大きな事柄の一つと言えます。

当院の患者さんでも在宅療養を選択した理由の一つとして、入院していると十分に面会ができないことを挙げる方が多くおられます。この春私自身祖父を亡くし、家族としてそのような経験をしました。

祖父は数年前に転倒を機に施設に入所しました。今年になりレウスで入院し、症状が改善後、食事が開始されましたが嚥下機能が著しく低下し飲食ができなくなり、主治医から予後数週間と言われました。元々入所していた施設でも看取りはしていただけますが、リモート面会しかできないことから、前橋の「ホスピス和が家」で過ごすことを決めました。ホスピス和が家では感染対策を徹底しながら、看取りが近い方には最大限家族の面会ができるよう配慮をして下さっています。

退院直後はぼんやりしていましたが、家族とふれあい丁寧なケアを受けるうちに活気が戻り、家族の面会に手をたたいて喜ぶ姿を見る事ができました。亡くなる2週間前には「俺のことは心配するな。もう永くはないんだろうが精一杯生きる。」と紙に書いてくれました。そのような力が残っていたこと、そのような思いを家族に伝えてくれたことに深く感動しました。十分に面会をして触れ合うことができ、亡くなった後家族の悲嘆は想像していたよりも大きなものではありませんでした。

亡くなる前の時間と言うのは本人にも家族にもとても大切な時間です。

病院でも施設でも命を守るために懸命の診療、対応を行われており面会への対応は難しいところとは思いますが、少しでも患者さんご家族の心が救われる事を願っています。

在宅療養もその一つの選択肢としてより多くの方に利用していただきたいと思います。

今回会報7月号では、多くの医療処置がありながら病院と在宅チームとが連携を重ね在宅療養につなぐことができた患者様をご紹介させていただきます。

日頃からお世話になっている病院、介護関係の方に感謝いたします。

今後ともよろしくお願いいたします。

院長 竹田 純南

